

論 文 要 旨

学籍番号	80933320	氏 名	高橋 千里
論文題目： <h2>人口減少社会における都市構造の研究</h2>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>これからの日本はかつて経験したことのない人口減少・少子高齢社会を向かえることになる。労働生産性が現状のままだとすると生産人口が高齢者を支え切れなくなり、日本の経済は切迫することになる。そこでこれからは都市を集約させ、経済効率を図ることが重要になる。人口減少によりスプロール化が進んだ郊外のインフラ投資を抑制するための対策のひとつに「コンパクトシティ」があげられる。人口を中心市街地に集中させることにより、インフラ投資等公的支出を抑えるものである。現在、青森や富山などの地方都市で積極的に行われているが経済の効率化を図る必要性については東京も例外ではないと思われる。</p> <p>本研究では高層化が進む東京のコンパクトシティを考えたとき、より高層で高密度な都市構造がこれからの社会に求められるという仮定のもと、都心における大規模で高層な開発について環境・経済・社会の側面から検証した。</p> <p>その結果、建物の高層化により敷地内に空地が生まれ、緑化率もあがることから環境への貢献を図ることができるが、高層になればなるほど緑化率が上がるということではなく、敷地面積や容積率などによって適正な高さがあるということを検証した。</p> <p>また、都心への人口の集中は、企業集積による時間・費用の節約による生産性の向上など高い経済効果を生む。また、企業ばかりではなく、居住の集積もはかることができれば、職住近接による余暇の増加や、文化施設・娯楽施設の利用率もあがり、人に会う機会も増え、結果的にはコミュニティが広がると考えられる。</p> <p>キーワード：都市計画，高齢化社会</p>			